


 むらせ こういち  
**村瀬 公一**さん(34歳) 弥富市荷之上町

## 地道な努力の先に続く農業の道

弥富市で代々農業を続ける村瀬公一さんは就農して14年目。高校3年の時就農を決めて農業大学校へ進学し、2年学んだ後に農業をはじめました。

父の代から花を栽培してきましたが、村瀬さんが就農した頃から多肉植物を導入し、10年以上かけて種類と数を増やしていきました。現在は、少量多品目のスタイルで約300種の多肉植物を栽培しています。「育てた植物が無事出荷されたときの達成感が農業の魅力です。体を動かして働けるのも自分に合っていると思います」と話します。

同じハウスに様々な品種があるため、就農してはじめてのころは性質の異なる各植物の特性や必要な環境を覚えるのが大変だったと話す村瀬さん。長年栽培を続けていく中で、細かな植物の状態などに気が付けるようになりました。

また、植物の品種や分類といった体系的な知識が身についたことで、栽培した品種の近縁種であれば知識や経験を応用して、新しい品種にも挑戦できるようになっていきました。そんな村瀬さんがこだわっているのが栽培に用いる土です。村瀬さん自らがブレンドした土は、成長が促進されるように一般的な多肉植物用の土より肥料分、保水性が多くなるように作られています。

ます。多肉植物は暑さに耐性がありますが、水分が多い状態で高温になると葉焼け等の症状が出てしまいます。

日本の場合、湿度が高く、特に梅雨の時期は冬以上に管理に気を遣い、5月ごろから換気を行います。肥料や水分が多いと管理も難しくなるため、実際の作業スケジュールや需要なども考慮しながら、より使いやすい形になるよう、今後も改良を続けていきたいと話します。

最後に「農業は体が資本です。体調を大事にしなからこれからもこの仕事を続けていきたいです」とメッセージをいただきました。

